

英語コミュニケーション力向上セミナー 実施報告書

【日時】平成31年2月7日（木）13:00～16:00

【場所】岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【講師】齋藤 裕紀恵氏（株式会社Y&S Visionary 代表取締役）

【受講者数】23名（うち女性研究者7名）

岐阜大学3名、岐阜薬科大学16名、岐阜女子大学1名、アピ株式会社3名

過去2回のセミナーで好評を博した齋藤裕紀恵氏を講師に迎え、様々なコミュニケーション術を学びながら、英語でコミュニケーションを円滑にできるようになることを目指すことを目的に開講した。また近年、英語で行われる会議も増えてきていることから、英語で行われる会議への参加の仕方、会議の進め方についても学んだ。

プログラムの概要は以下のとおりである。

基礎編

How to communicate effectively 「効果的にコミュニケーションをする方法」

- * Start the talk（会話を始める）
- * Show interests（興味を示す）
- * Make a small talk（スモールトークをする）
- * Keep the talk flow（会話を続ける）
- * End the talk（会話を終える）

コミュニケーション上手へのコツ①：Be an active listener（積極的な聞き手になる）



応用編

How to facilitate a meeting effectively 「効果的に会議を進める方法」

- * Prepare a meeting（ミーティングの準備をする）
- * Start the meeting（ミーティングを始める）
- * Keep the flow of the meeting（ミーティングの流れを保つ）
- * Take the control of the meeting（ミーティングをコントロールする）
- * End the meeting appropriately（ミーティングを適切に終える）

コミュニケーション上手へのコツ②：Application to a video conference（ビデオ会議への応用）

実践編

Have a meeting to discuss “Globalization” in university 「大学のグローバル化について議論するためのミーティング」

基礎編・応用編とも、定型文を学んだ後、隣同士や立ち上がって多くの人と話すという実践時間がとられた。すべての受講者が積極的に取り組んでいた。相手に質問をするということは

大事なことである。相手に興味を示し、相手に話す機会を与えるということであり、円滑にコミュニケーションをとる方法のひとつである、と述べられた。

応用編の会議の進め方においても、議長（司会）やタイムキーパーを決めてグループで取り組んだ。コツとして、分からないままにせずその場で意見を述べること、簡潔に話すこと、司会者は1人一回は発言させるよう意識すること、等を示された。また、agenda（議事予定書）作成の有用性も示され、英語会議に限らず、すぐにでも活用できそうであった。

最後の実践編では、「大学／企業のグローバル化について」検討するというテーマで、会議を体験した。まず自分の意見を書き出し、グループ替えをして意見交換（会議）を行い、最初のグループに戻り意見を要約して報告する、という形式で進められた。応用編と同様に、司会者とタイムキーパーを決め、セミナーで学んだ会話の進め方（会話の始め方、つなぎ方、賛成意見や反対意見のいい方、終わらせ方）を使って会議を進めた。

最後は時間が足りなくなり、かけ足になってしまったのが残念だった。

英語での会議に参加する時、英語で意見を述べるだけでなく、今後はメッセージャーやファシリテーターの役割を担うことも増えてくるだろう。今回はその訓練にもなった。



<事後アンケートの集計結果より>

実用的な表現を学べて実際に使う時間が多くあったことがよかったという感想が多かった。反対に、英語力のある人同士で会話はずみ、周りの人がついていけなかったと感じた人がいた。一人一回は発言させるという会議の進め方を学んだが生かせなかったことは残念である。

レベルおよび開講時間をちょうどよいと回答した者がほとんどであった。また、アンケート回答者の100%が、セミナーが役に立ったと回答し、約95%がまた参加してみたいと回答している。

本セミナーでは、コミュニケーションの先にあるメディエーション（仲介者）になることを目指して、基本的で実用的な表現を学び、実際に口に出すことで、英語コミュニケーション力向上を図るものであった。

実用的な表現や、これまであまり習わなかった「会話の終わらせ方」の表現を多く学べたことにより、満足度は高かったと推察する。教員・研究者のみならず、学生が英語での会議への参加を想定し、将来に向けて積極的に受講してくれた。本セミナーの開講は、研究者育成支援の一環として非常に有益であったと思われる。